

進路ニュース

令和6年3月5日発行

後期日程を廃止し、総合型や学校推薦型の募集枠を増加

I. 進路指導部より

現在の大学入試改革では、学力偏重の従来型の入試からの脱却が進んでいます。

ある大学の教授にその事を聞くと、大学側の事情として、共通テストで失敗して第一志望を諦めたり、前期の大学に不合格して後期で入学してきたりして、不本意に入学してきた生徒の入学時のモチベーションが低く、最悪の場合、それが卒業まで続いてしまうことが問題になっているということでした。学力の高い生徒に医学部医学科の受験を薦めても、適性がなければ、本人が入学後に苦しむだけということです。

例えば、群馬大学では、医学部医学科と共同教育学部の一部の専攻で後期を廃止したり、理工学部で学校推薦型と総合型の募集人数が、学部全体（470名）の約3分の1になっていたりします。特に理工学部では、第一志望にしている生徒を積極的に取りたいということで、学校推薦型の募集枠が多くなっています。しかし、どの大学も第一志望であれば、誰でも合格できるかということ、そうでは無く、高校3年間の評定平均や学科試験、共通テストなどによって、基礎学力がきちんと身に付いていることが評価されます。

東北大学のAO入試では、英語重視が顕著で、複数の学部の学科試験が英語のみであったり、英語の資格が得点化されたりしています。大学で最も必要なスキルであることがよく分かります。

II. 始業式までの過ごし方

2年生の中には、昨年11月頃から入試科目を意識して、学習時間を増やすことができた生徒がいますが、3月から4月にかけてやって欲しいことは、より具体的な苦手分野と苦手科目の克服です。

例えば、第一志望の大学で小論文が課されているのであれば、その対策をしなければなりません。

小論文対策として、まず最初に始めなければならないことは、良い文章を読むことです。新聞の論説などは、筆者の考えが、具体的な例を挙げながら、非常に分かりやすく書かれています。そのような文章を読み、自分の考えを読み手に分かりやすく伝える文章の構成や言葉遣いを学んでください。良い文章を真似ることが対策への第一歩です。

言葉遣いについては、例えば、小論文の添削をしていると、「なので、～」という接続詞を多用する生徒がいます。「そのため、～」や「それから、～」を使用してください。口語と文語の使い分けができないと、志望理由書で書いた文章をそのまま面接で話してしまうことになります。

また、大学入試にどの程度の学力が必要なのかを計るために、実際の入試問題を解いてください。

進路指導室には、赤本（大学の過去問題集）があり、誰でも借りることができます。今年度の3年生は、非常によく借りに来ていました。入試問題を知らなければ、自分の学力との差も分からないし、対策もできません。

Ⅲ. 苦手科目の克服法

誰でも苦手科目や苦手分野はあると思います。

それを克服することで、新たな境地が開かれることがあります。**春休みは何もやることはありません**ではなく、**時間がある時だからこそ、日頃できなかったことに取り組んでください。**

今回は、3名の先生の克服法を掲載しますので、参考にしてください。

①数学科M先生の現代文克服法

今から約20年前、高校3年生の11月に部活動引退した後の話です。それまで現代文の勉強を全くせず、「そろそろなんとかしないとなあ」と思っていました。『**評論と小説を分けて連続で解くとできるようになる**』ということ誰かに言われた記憶があり、試しにやってみました。Z会の問題集だったと思います。1日2問を毎日解きました。時間にすると1時間くらいだったと思います。苦手な小説から始め1週間くらい続けると、正解率が一気に上がりました。**間違えた問題の解説を読み、答えの選び方を修正することを繰り返しました。**その後、評論も解き、3日くらいでわかる気がしたのでやめました。小説を1週間解いていたので、そのコツを引用できたのだと思います。そこから現代文は、点が取れる科目に変わりました。

毎日演習と復習を繰り返すことにより、『自分の中で答えを選ぶ方法が確立した』という感じです。

②英語科K先生の英単語克服法

高校2年生の時、沼高の修学旅行は中国でした。旅行自体は、大変楽しかったのですが、その中で集団食中毒が起こり、帰国後2週間ほどの学年閉鎖になりました（次の年から修学旅行は沖縄に変更）。

ところが、私自身は食中毒の症状は全くなく、ただの2週間の休みを得ることになりました。その時、ふと『**ターゲット1900を全部覚えてやろう**』という思いが頭を駆け巡りました。高校1年生の頃から英語のS先生に「単語を覚えろ、単語を覚えろ」と幾度となく言われ続けていながら、2年生の2学期まで来てしまっていたことにも焦りを感じており、もう覚えるチャンスはここしかないと思い、一念発起でターゲット1900の暗記に取り組みました。**2週間で全部覚えたなんて嘘だと思われるかもしれませんが、本当に1900個の単語を全部暗記しました。**そうして迎えた次の模擬試験。英語の長文を読んでいて、明らかに見える世界が今までと変わったことを実感しました。そこから英語を読むことの楽しさを感じるようになり、英語が一番の得意科目となりました。

そして、現在、英語に携わる仕事をしていると考えると、修学旅行後に必死で単語を覚えたあの期間が、私にとっての『**人生のターニングポイント**』だったのかもしれない。

③理科M先生の英語克服法

高校3年生の1学期まで、何となく担当の先生に言われるがまま英語を勉強していました。

夏休みに予備校の夏季講習に参加した時、英語の講師が「～tion」や「～sion」の直前の母音にアクセントがくるということを、毎回講義の最初に呪文のように話していて、**初めて発音記号とアクセントについて真剣に考えるようになり**ました。

辞書を使って英単語の意味を調べる時、必ず発音記号とアクセントを確認して、さらに下に載っている例文を音読したり、ノートに書いたりすることを何度も繰り返しました。時間はかかりますが、そのおかげで、英語ができるようになり、模試の長文が最後まで読めるようになりました。